

議事録【第4回百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会：意見概要】

周辺有効活用に関わる事項

区分	意見概要	事務局等による回答等
自然環境の保全について	<ul style="list-style-type: none"> ・中州（清内橋下流）の自然環境保全にはゴミ対策等の維持管理面との調整をどう行うかが課題である。 ・河口部周辺でのオニバスの再生については、考えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然保護と環境保全との整合について、環境保全条例の改正を進めており、必要に応じて共生地域や保護地域等を設定するなど、関係機関とともに取り組んでいきたい。（岡山市） ・学識経験者からは浚渫等によりオニバスが自然再生する可能性もあると聞いている。
水辺空間の創造について	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り後の処理策として、ヨシの有効な利用についても考えてほしい。また、親しまれる空間づくりとして、カラシナ（アブラナ）を植えて地域の特性はつくれないか。 ・河口部周辺では、水辺の小動物等に適した植栽や自然に優しい護岸工法など、きめ細やかな水辺整備を考えてほしい。 ・桜並木等の整備後の維持管理について、行政だけでなく地域住民としてどの程度協力していくのかも調整しておく必要があるのではないかと。特に整備場所への不法投棄に対する対策は重要である。 ・地域住民と行政が一体となった川づくりや維持管理は、非常に重要であり、モデルケースとして取り組んではどうか。 ・国体に備え、各町内会ではプランターに花を植えるなど美化に取り組んでいるが、堤防を利用してコスモスを植えるなどの美化はできないか。 ・百間川河口東側の三角地は、現在ある自然を生かしつつ、六番川水の公園と岡東浄化センターの周囲を桜並木で結ぶ散策路として整備できないか。また、整備後の管理は地域のボランティアも考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の問題として、防止対策では監視及び罰則等を強化する方向で条例を改正中である。投棄物の処理では、基本的には管理者で費用負担すべきと考えるが、ボランティアや地元町内会等にご協力頂いているのが現状であり、今後とも市民協働のまちづくりとして取り組んでいきたい。（岡山市） ・本日頂いた各委員からの意見も踏まえ、ゾーニングの具体案については、地域住民と意見交換できるよう細部にわたってもう少し具体的なものを示したい。
地域社会の意向等について	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺有効活用の検討が百間川河口水門工事中だけの一過性のものでなく、将来に渡って最後まで関わってほしい。 ・市道政津沖元線が百間川河口まで延伸の計画がない理由を詳しく説明してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と河川管理者、自治体との協力関係や他省庁との連携が非常に重要であり、調整しながら進めていきたい。 ・道路計画のご意見については、別途、岡山市へ確認する。

河口水門に関わる事項

区分	意見概要	事務局等による回答等
塩水浸入について	<ul style="list-style-type: none"> ・塩水浸入については、やってみないとわからないが、殆どの地域住民が反対しており、考慮してほしい。 ・塩害の懸念から沖元樋門まで塩水が上がっては困る。十分配慮の上、試行して頂きたい。 ・塩水浸入の際、深みに塩水が溜まらないよう考慮する必要がある。 ・塩水の適切なコントロールが重要であるが、水の流動や滞留時間の短縮により、水質浄化効果はありとされており、どの程度効果があるのか確かめる価値はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試行にあたっては十分調査を行い、情報公開し、地域住民の方々の合意のもとで進めていきたい。

その他の意見

意見概要
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の基礎データとして、百間川周辺の地下水位、淡水と塩水の境界など地下水調査を行ってほしい。 ・百間川の周辺整備にあたり、瀬戸内海や児島湾の潮位や地盤変動の把握は重要であり、調査をしてほしい。